



# ふきのとう

**第25号(復刊号)**  
 【発行】  
 社会福祉法人  
 秋田県社会福祉事業団  
 〒010-1412  
 秋田市御所野下堤五丁目1番地の1  
 TEL 018-889-8360 FAX 018-889-8361  
 HP <http://www.fukinoto.or.jp>  
 e-mail [mail@fukinoto.or.jp](mailto:mail@fukinoto.or.jp)



## 強度行動障害研修

平成27年1月8日(木)に国立のぞみの園の志賀利一先生を講師に、強度行動障害支援についての研修会を開催し、法人内外から156名の参加がありました。

本年度、国の社会保障審議会では、社会福祉法人制度改革の検討がなされる中で、経営組織の強化やその透明性の確保、地域公益事業への更なる取り組みなどが新たに求められております。そうした状況を真摯にくみ取り、新年度から、各障害者支援施設において、引きこもりの方々などへの相談支援や他法人のグループホームの方々も交えての定期的な交流の場を開設するなど、地域のニーズを踏まえた新たな取り組みを計画しております。今後、当事業団のモットーである「安心と豊かな生活をまごころで」を胸に刻み、関係各位のご理解とご協力を得ながら、鋭意、運営に努めてまいりますので、皆様の一層のご指導とご鞭撻を引き続き宜しくお願いいたします。

今年度は、福島県南相馬市の特別養護老人ホームへ職員を一ヶ月間派遣して被災地支援を行ったほか、十一月に県の委託を受けて、県内の福祉施設関係者等を対象に、障害者虐待防止等研修を開催しました。また、新たに強度行動障害を示す利用者支援のあり方に関するワーキンググループを立ち上げ、支援のためのマニュアル作りに着手するなど、支援体制の強化に取り組んでまいりました。さらに、本年一月には国立のぞみの園から講師をお招きし、県内の福祉施設や学校等の職員を対象に強度行動障害に関する研修会を開催し、多くの反響をいただきました。

当事業団は、秋田県が設置した二つの福祉施設を管理運営するため、昭和三十九年四月に設立され、昨年、創立五〇年を迎えることができました。設立当初から、利用者やそのご家族、地域の皆様と真摯に向き合い、県を始めとする関係機関との信頼関係を築きながら、お陰様を持ちまして、現在、知的障害児・者や身体障害者、高齢者向けの施設など、県内一〇箇所で一三の施設を運営しております。



理事長あいさつ

秋田県社会福祉事業団  
理事長 武田 哲也



福島派遣

南相馬の青空

心身障害者コロニー  
銀杏支援課 中津川 かおり

1月8日〜31日に、福島県相双地域介護職員応援事業で南相馬市の「特別養護老人ホーム長寿荘」へ派遣職員として赴任しました。太平洋沿岸の南相馬市は冬でも雪がなく、ほぼ毎日青空が広がっていました。震災から4年が経とうとして



〔後列右から3人目が中津川職員〕

いるのに原発・津波被害は何も変わっておらず復興とは程遠い状態でした。応援事業も3年目で、長寿荘では職員も利用者の方々も派遣職員の受け入れに慣れており、私も温かく受け入れて頂きました。施設の時間はゆつくりと流れており、利用者の方とふれあう中で私は普段忘れがちな介護への基本的な心構えを思い出させていただきました。自分が派遣職員として施設の力になっていないのではないかと感じる事が多かったのですが、「来て

くれるだけでありがたい。」との言葉を頂きました。震災という辛い出来事を経験して、尚且つ明るく優しく他者を受け入れる南相馬の方々は、心癒される青空のようだと感じました。私にとって人との出会いは宝物であり、今回の派遣でもたくさん笑顔の宝物が増えました。辛い時は南相馬へ繋がっている青空を見上げて、今いる場所で、今出来ることを考え、当たり前前の日常を送れる幸せを大切に生きていこうと思っております。



被災地支援 釜石ボランティア

当法人では、平成24年度から東日本大震災の被災地でボランティア活動を行っています。今年度は岩手県釜石市で2回の活動を行い、3年間で延べ146名の職員が参加しました。



釜石市での活動の中で、数回にわたり『菜の花大地復興プロジェクト』に参加し、菜の花の種を植える作業から刈り取る作業まで一連の活動をお手伝いしてきました。私たち以外にも多くのボランティア団体や個人がこの活動に携わり、今でも継続して活動は行われています。主催団体の職員の方からの「直接的ではないが、これも被災地支援のひとつです。こういった活動をきっかけに、たくさんの方が釜石へ訪れてくれたらうれしい。」という言葉が印象的でした。





平成26年度採用職員

平成26年度職員提案

							
支援員 今田由香	心身障害者コロニー 支援員 眞田誉久	心身障害者コロニー 支援員 岡田静江	心身障害者コロニー 支援員 岡田静江	ボイラー技師 三浦聡	心身障害者コロニー 支援員 柴田大	高清水園 支援員 柴田大	電気技師 鈴木正暁
赤光支援課	管理課	管理課	管理課	管理課	管理課	管理課	管理事業課
							
支援員 阿部隼己	身体障害者更生訓練センター 支援員 藤田玲子	やまばと園 支援員 菅原悠佑	やまばと園 支援員 菅原悠佑	阿桜園 支援員 鈴木孝大	心身障害者コロニー 支援員 細矢晃世	心身障害者コロニー 支援員 佐々木寛子	心身障害者コロニー 支援員 田賀糸修
支援課	管理支援課	管理支援課	管理支援課	支援課	診療所	白光支援課	赤光支援課

受章おめでとうございます

瑞宝双光章

理事 太田春海氏

(秋田県民生児童委員協議会会長)

評議員 高島幹子氏

(公益社団法人秋田県看護協会会長)

(公財) 日本財団からの助成について

当法人が運営する秋田県高清水園に、車いす対応車(ダイハツ/ハイゼットスローパー)が納車されました。

この車の愛称は「スマイルGO」です。皆さんよろしくお願ひします。



[提案件数121件]

部門	表彰	所属	提案者	氏名	テーマ
自由部門	優良賞	南部老人福祉総合エリア	課長	佐藤隆	退職職員等による事業団人材バンク
課題部門	優秀賞	南部老人福祉総合エリア	課長	堀田学	情報セキュリティ対策強化について
	優良賞	北部老人福祉総合エリア	課長	柴田省吾	職員等の宿泊研修
	優秀賞	身体障害者更生訓練センター	主査	堀田由香	介護保険事業への参入について
	最優秀賞	身体障害者更生訓練センター	主査	工藤撰子	事業団内の人材育成部会設立について



# 退職者からのメッセージ



南部老人福祉総合エリア  
管理者 高山 久俊

『見つめる・認める・見とどける』『利用者(職員) あつての施設。施設あつての法人』『二億の一人一億の母あれど、我母にまさるものなし』『和敬清寂』…。  
事業団に勤めていた間に出逢った言葉です。真意はご推察ください。  
最後に一言『感謝』



南部老人福祉総合エリア  
総括技能技師 渡邊 萬助

在職中は、温かいお力添えのおかげで職場生活を楽しく過ごすことができ、心から感謝しております。皆様方とお会いできたこと、そして教えていただいた数々は私の大切な財産になっております。人生の貴重な経験として今後活かしていく所存でございます。



南部老人福祉総合エリア  
施設長 佐藤 葉子

昭和六十三年十一月一日、それが私の事業団職員としてのスタートの日でした。事務系の仕事からの転職であり、すべてが初体験の日々だったことを今でも鮮明に覚えています。二十数年を振り返り、何とかここまで辿り着くことができたのも家族の協力があつたからこそ感謝の気持ちでいっぱいです。



高清水園 管理課  
総括技能技師 田口 洋一

感謝  
私はまだ水に浮かぶ油のように定まらない頃、雲をつかむ思いで飛び込んだ世界でありましたが、人に恵まれ、充実した社会生活を送ることが出来たことを皆様に感謝いたします。  
また、ふきのとう初版の表紙を飾った「バツケ」写真の秘話を、懐かしく思い出す今日この頃です。



高清水園 管理課  
主査 今井 悦子

秋田県社会福祉事業団の皆様、たくさんのお思い出をありがとうございます。これまで大過なく勤められたのも皆様の支えや、励ましの言葉があつたおかげです。深く感謝を申し上げます。皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



高清水園 地域支援課  
課長 竹下 秀男

昭和五十二年四月から心身障害者コロニー研修生として、社会福祉事業団にお世話になりました。皆様の御蔭や支えで今日に至る事ができました。これからも継続し、支援の基盤となる福祉の心と利用する方が満足して暮らせるように邁進して頂ければと願っております。



心身障害者コロニー 管理課  
主査 齋藤 憲子

四季折々の自然にふれながら、自分なりに福祉を間近で勉強できたこと、大勢の方々との出会い、充実した日々をおくることができたことに深く感謝しております。  
ありがとうございます。



心身障害者コロニー 管理課  
総括技能技師 金沢 久

このたび三月三十一日をもちまして、秋田県心身障害者コロニーを定年退職いたしました。おかげさまで在職三十八年の間、大過なく努めることができました。これからの所々あります。これからもよろしく申し上げます。



心身障害者コロニー 創生支援課  
課長 齋藤 節子

県南での勤務が殆どでしたが退職までの二年間、コロニーという素晴らしい環境の中で皆様に助けて頂きながら無事この日を迎えることができました。出会ったすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。長い間ありがとうございました。



# 退職者からのメッセージ



心身障害者コロニー  
課長 銀杏支援課  
新田真紀子

思えば：  
長い時を過ごしてきました。その間に法や制度が変わり、自分をとりまく環境にも変化がありました。ここで学び得た事を糧にこれからの時間を大切にしていこうと思います。  
ありがとうございます。



心身障害者コロニー  
主査 高橋 恵子

「太陽の如く、心常に明るく、筆の如く、常に美しくあれ。」人生の師の指針を胸にあつという間の日々でした。利用者の皆様、保護者の皆様、支援に関わる皆様、お世話になりました。ありがとうございます。



心身障害者コロニー  
赤光支援課  
課長 菅原 秀一

思い出  
県社会福祉事業団の職員となり、四十年になります。様々な思い出がありますが、南部エリアでのことです。県からの要請で資料作りに追われ、次の日の早朝に帰宅し、着替え直ぐに出勤する日が続いた事です。仲間や家族に支えられ出来た事と感謝しています。



阿桜園  
園長 戸嶋 正

「退職を前に」  
事業団職員となり四十数年、出発点である鳥海コロニー勤務時代の思い出が走馬灯のように浮かびます。今日の自分があるのも一緒に働いた多くの先輩・職員の皆様方からのご指導・御協力の賜と心より感謝申し上げます。



阿桜園 支援課  
課長補佐 高橋 祐子

昭和五十八年七月阿桜学園に採用して頂きました。阿桜園、南部老人福祉総合工リアに勤務させて頂き利用者の方々との数々の思い出が宝物になりました。多数の上司の方や同僚の方々に恵まれ退職の日を迎えることが出来ました。お世話になりました。



やまばと園  
園長 齊藤 宗子

「おばこ天使」という一冊の本に出会って、四十年という年月を秋田県社会福祉事業団で勤め終えることは、感慨深いことです。思い出は限りなく溢れ、これからの支えです。利用者・職員の皆さん、ありがとうございます。



やまばと園 管理支援課  
課長補佐 尾久 公平

事業団に勤務して色々な方と出会うことができ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。一身上の都合で今回退職することになりましたが、もう一度自分の人生を見つめなおし新たな気持ちで人生を歩んでいきたいと思えます。大変お世話になり、有難う御座いました。



やまばと園 管理支援課  
総括技能技師 高橋貴美子

二十二年間慣れ親しんだやまばと園で退職を迎えることが出来ますのは、今まで私を支えてくれた上司、サポートしてくれた仲間のおかげであると感謝しております。これまでの貴重な経験を、今後に活かしていきたいと思えます。ありがとうございます。



身体障害者更生訓練センター  
支援課  
課長 斎藤 晴代

百字にまとめるだけの文才がなく、削ぎ落としたらやはり残る言葉は『感謝』の二文字となります。九州生まれの未熟な私は、行く先々でご迷惑ばかりおかけしていただくと、恥ずかしい限りです。ご恩返しをしなければと思いつつ、『穴埋めをしているつもりがアナ広げ』。深謝。



### 施設紹介「点字図書館」

当施設は、視覚障害者の方々のために点字図書、録音図書などを備え、貸出を行っています。図書の製作は、ボランティアの協力によって行われ、毎年養成講座を実施し、新規ボランティアを育成しています。

利用者個人の生活関連資料や希望の図書を点訳、音訳、テキスト化するボランティアをはじめ、テストをはじめ、テレホンニュースサービスクラス等個人のニーズにお応えするサービス提供を行い、利用促進を図っています。

また、児童等の体験学習や実習受入等の地域交流を図り、一般県民にも広く施設を知って頂けるよう努めております。



〔ボランティア養成講座〕



〔点字の体験学習〕

### 法人研修について

当事業団では、人材育成と職員の資質の向上を目指し、事業団の研修体系に基づいて、法人研修、事業所研修、法人外研修に積極的に取り組んでいます。

今年度は、介護技術研修やグループホームの担当職員等を対象とした地域生活支援研修の他、障害者の虐待防止・権利擁護に関する研修等を実施しました。

特に、今年度新たに実施した強度行動障害に係る研修は、強度行動障害の基礎的な知識を習得し、利用者に対するより良い支援の提供を目的とした研修です。国立重度知的障害者総合施設のぞみの園の志賀利一氏による講演と3つの事業所による実践報告会を実施し、法人職員の他に学校教育関係や福祉関係等からも参加



〔障害者虐待防止・権利擁護研修〕



〔介護技術習得研修〕

いただき、強度行動障害についての理解を深めることができました。強度行動障害支援についての研修は、法人全体の支援スキルの向上を目指し、継続して取り組んでいくこととしています。

また、職員から提案があった精神障害者に係る研修を実施するなど、各施設の声を反映させながら、多様化する福祉ニーズに適切に対応する人材を育成するため、今後も効果的かつ計画的に研修を進めてまいります。

(事務局業務改善課)

### 計報

心身障害者コロニー赤光支援課

藤原 欽 子 職員

平成26年8月15日逝去されました。

心から御冥福をお祈りいたします。

### 編集後記

平成十六年三月の第二十四号から十一年間の充電期間を経て、機関紙「ふきのとう」を復刊しました。

今回は、平成二十六年度に退職される方々からご挨拶をいただき、先輩方が当事業団の歴史を積み重ねてきてくださったことを実感する機会となりました。

これまで積み重ねてきた経験を大切にしながらも、時代にフィットしていく『秋田県社会福祉事業団』の活動を、編集担当一同意気込んでお伝えしていきたいと思っております。

(編集者)